ボランティアに参加した学生の声

『入間樹林の会』の活動に参加し、樹林を保全するためのトラップ作りや草刈り体験をしました。

今回のボランティア活動を通して、その意義や魅力は何か改めて考えることができたと思います。私が導き出した答えは一つではありませんが、その中でも一番強く感じたことは「地域とのつながりが生まれる」ということです。

活動に参加していなければ、入間樹林の会のメンバーとは一生出会っていなかったかもしれないですし、入間樹林に足を運ぶこともなかったかもしれません。ボランティアは一期一会ということを心から感じました。

ボランティアを通して、地域を知り、人と出会い、自分の価値観を広げられる。自分の世界が広がれば人生の選択肢が増え、それは確実に自分への大きな利益になる。こうしたことを自分の身で直に体感でき、とても良い経験になりました。

『川の図書館』という活動に参加しました。『川の図書館』は多摩川の河川敷で行われていて、寄付された本を無償で提供する活動です。

私は、本の片付けや整理、地域の方々と交流をしました。初めは、緊張していてなかなか自分から話しかけることができませんでしたが、地域の方々の温かさに触れていく中で、徐々に勇気が湧き積極的に話ができるようになりました。

講義を受ける前は、ボランティアとは誰かのために何かをしてあげること」と捉えていました。しかし、実際にボランティアに参加してみて、自分自身が成長できる場所でもあると実感しました。

年齢や性別など様々な方と交流することができ、とても楽しく充実した一日となりました。自分の身近な場所ではどんなボランティア活動が行われているのか興味がわきました。

『しばさき彩ステーション』にボランティアとして訪問しました。

私は活動を通じて、将来看護師として多くの患者さんに会う度にその方の背景をきちんと考え、その人らしさを大切にしていきたいと考えました。

1日という短い時間でしたが、持病がありながらもやりたいことに一生懸命取り組んでいる方や、多くの苦労を重ねながらも工夫を続け、たくさんの人を笑顔にする方など、多くの人に出会うことができました。

このように『しばさき彩ステーション』で出会った方々は、様々な背景がありましたが、目標に向かって輝いていました。そのため、病気や怪我によりこの輝きが無くならないように、看護師として共に考え、解決し、輝きが増すようなサポートをしていきたいと思いました。

おわりに

今年度は学生の受け入れ先として、9団体の皆さまにご協力いただきました。学生の体験は、継続的に行われている活動の中のわずかな時間に過ぎませんが、体験を通して関わった方々の想いや人生観に触れ、様々な気付きや学びにつながったのではないかと思います。

地域では、異なるひとりひとりが様々な暮らしを送っています。誰もが当たり前に、いつも幸せに暮らすことができれば素晴らしいですが、きっと誰にも少し躓いてしまったり、立ち止まりたくなったりする瞬間や経験があるのではないでしょうか。そんな時、地域の中の気軽にアクセスできる場で、少しの息抜きをしたり、仲間を見つけたりできると、新たな1歩が踏み出しやすくなるはずです。今回の授業が、誰もが取り残されることのない、ひとりひとりが幸せな社会の実現に向け、学生の視野が広がるきっかけになれば嬉しいです。

市民活動支援センターでは、今回学生を受け入れて下さった9団体のように、身近なところで地域や社会に繋がることができる多様な入り口があることが重要だと考えています。入り口を探している方も新たな入り口を作りたいという方も、ご相談をお受けしていますので、お気軽に市民活動支援センターへいらしてください。